

# 平成 29 年度 社会福祉法人恵仁会 事業報告書

社会福祉法人恵仁会	1
事務局	2
特別養護老人ホーム鹿屋長寿園	
介護部門	5
看護部門	7
機能訓練部門	9
介護支援専門員部門	11
生活相談員部門	13
栄養部門	16
教育部門	18
施設管理部門	20
在宅部門	
居宅介護支援事業所鹿屋長寿園	22
介護保険相談センターかのや	24
相談支援事業所長寿園あかり	25
在宅老人デイサービスセンター鹿屋長寿園	26
ミニデイサービス舩揮くん家	28
ミニデイサービス瑠璃ちゃん家	30
ホームヘルパーステーション鹿屋長寿園	32
小規模多機能ホーム哲ちゃん家	34
小規模多機能ホーム花海家長寿園	35
グループホームふれあい	37
グループホームあいら	38
ケアコールセンター鹿屋長寿園	39
プライエボーリ優花里	40
住宅型有料老人ホーム笠之原長寿園	42
住宅型有料老人ホームげんき	43
住宅型有料老人ホーム新川長寿園	45
養護老人ホーム寿光園	46
鹿屋市委託事業	
鹿屋市地域包括支援センター下祓川サブセンター	48
高齢者等訪問給食サービスセンター	49
高齢者等世話付市営住宅	50



#### 平成29年度法人経営の重点事項

平成29年度は、これまで構築してきた地域包括ケアシステムを更に体系化し取り組みの推進に力を注いだ。特に、予防の視点に着目して法人独自の長寿園カレッジや出張講座等で地域高齢者の生きがいと健康維持に取り組んだ。

また、職員の人材育成も積極的に取り組み、幹部職員を集めた長寿園塾の開催により次年度に向けた事業計画のアイデアや立案を試みた。人材定着においても、教育担当の専従によりきめ細やかな相談支援体制が図られ離職率も法人全体で1割を切っており大きな成果が出ているところである。

人材確保では、外国人技能実習制度が介護の分野に対応されたことから、積極的に取り組みを進めていきたいと考え、平成30年度に2名のベトナム人の採用を決定したところである。外国人受け入れについては、ノウハウは持ち合わせていないが関係機関と協働して新たな介護人材の確保と育成システムを推進していきたい。

運営に関しては、医療介護の同時改定に向けて情報収集に努め、新設される加算の対応や適切な職員配置等の検討を進めてきた。軽度者の地域支援事業への移行が進む中で、その人に即した社会資源の活用が図れるよう、定期巡回随時対応型訪問介護看護のアセスメントステイの試行等を通じて在宅限界を高める仕組みに取り組んだ。自宅を中心とした地域での暮らしを支援するうえで、重点的に以下の3点に取り組む自宅を中心とした生活支援やサービスの充実を図った。

一点目・・・本人の自宅での暮らしの継続を念頭に、定期巡回・随時対応型訪問介護をアセスメント機能としても活用し、本人だけでなく世帯・近隣も含めた支援体制を目指した。結果として、大きな成果は得られなかったが、いくつかのヒントを得ることはできた。在宅への移行に関しては、できるだけ早めに専門職が介入し、家族の支援体制まで考慮したマネジメントが必要である。次年度の引き続きこの取り組みを進める。

二点目・・・サロン活動などの地域活動を推進し、介護予防の取り組みを一層進め地域における指導的人材を育成を図った。特に、長寿園カレッジは、地域のリーダー育成を目指して取り組み、15名の方々が誕生した。次年度は、リーダーの方々を中心に各地域における地域活動を支援していく。

三点目・・・各エリアでエリアマネージャーを中心とした取り組みや人事も含めた一時的な完結型の仕組みを増やし、本部機能とエリア機能を段階的に移行しエリア機能が高める取り組みを行った。実際に、イベント等は各エリアで完結しており、住民との良好な関係で盛り上がりを見せた。しかし、花岡エリアにおいては、慢性的な人材不足等の課題もありエリアとしての位置づけが妥当かについて再考する必要性を感じている。次年度に向けて検討する。

1. 平成29年度目標の達成状況

法人全体の財務状況については、事業活動収入が当初予算18億9059万円に対し、19億1722万円となり、当期末残高についても予算5842万円に対し、8577万円と大幅に上回ることができた。居宅ケアマネ協力のもと、在宅サービス、特に定期巡回事業を中心に利用者の獲得ができたこと、その他入所施設に関しても、入退所に伴う空床期間を短縮したことなどがあげられる。

・企画課

社会福祉法の改正に伴い、適切な手順に沿って理事会、評議員会等の開催、各種手続き等、適正な運営を行った。

各種補助金について、調査・申請を適切に行い、補助金の取得に努めた。

人材獲得サイトの活用や、学校等への訪問を行い、7名の新卒者を採用した。また、就職面談会や、ハローワークでの広報活動により、中途職員の獲得にも努めた。

新規事業所の開設に伴う手続きや、準備等を適切に行い、円滑な事業開設を行った。

また、変更届等の手続きも各事業所と連携し、情報を共有することで適切に行えた。

・総務課

給与業務について、各事業所における給与提出資料統一や、提出期限の明確化により、給与業務を細分化し分担して給与業務が行えるようにした。

事務局ミーティングを総務課業務報告会として、業務特化型の業務会議に変更し、コンスタントに情報共有ができる会議として変更し、各職員の業務状況を共有することで、総務課内の連携を強化することができた。

業務の効率化を図るため、業務を2名体制で取り組めるように業務分担を図ったが、社会保険業務の体制として、2名体制にできていない状況もあった。

・経理課

新卒及び中途採用職員の教育体制について、経理課では新卒者が1名いたが、経理業務については会計事務所による毎月の指導を中心に、職員による指導を行った。その他、接客や接遇といった日常業務については、教育主任の協力のもと定期的な面接による指導も行った。また、事務局内でもエルダーによる指導も行った。

各業務の正副体制確立については、下半期(1月)に職員が育休から復帰したことにより、レセプトや会計の正副体制だけではなく、牽制状態を確保することもできた。

業務の効率化を図る目標については、経理課で毎月、経理担当者全員と行っていた報告業務の方法を、全員ではなく必要な事業所及び必要な箇所のみ確認に変更したことで簡素化できた。また、物品の購入方法も、その都度受け付けての処理方法から週2回に変更したことで、担当職員の負担が減り効率的になった。

予算と実績対比及び前年度実績との比較を、月に2回(中・下旬)行うことで、今までよりリアルタイムでの財務状況や利用者状況を把握することができた。

## 2. 総合評価

### ・企画課

各種手続きや、行事等の開催について、各事業所等と連携することで、円滑に遅延なく開催することができた。職員間で業務の進捗状況等の情報を共有し、業務を分担することで、効率的に業務を行うことができた。

### ・総務課

総務課の3つの目標の中で、給与業務の体制見直しと情報共有については概ね達成ができたが、業務の効率化の取り組みの達成ができなかった為、次年度も継続して、取り組みを行っていく。

### ・経理課

経理部門としては、新卒職員を1名受け入れ、オリエンテーションを経てから、会計業務の引継ぎを行った。業務については、エルダーや他経理職員、教育主任の協力をもらいながら、日々の会計業務指導、定期的な面接を行いスムーズに引継ぎ等が行えた。また、上川路会計事務所には研修を年2回依頼し、会計の基礎や月次の処理、予算作成等の内容で指導をして頂き、経理課職員のスキルアップを図ることができた。毎月の予算実績管理についても各経理担当者が密に管理者と確認を取り管理したことにより、実績把握を今までより、リアルタイムにて確認することができた。

介護保険請求業務（レセプト請求業務）に関しても、前任者が育休より復帰したことで業務の正・副体制を整え、牽制状態をとることができた。

## 3. 次年度への課題

### ・企画課

理事会、評議員会の開催時期や審議内容等について誤りのないよう適切に開催する。事業所開設や事業内容の変更に伴う手続き等を各事業所と連携し適切に行うとともに、行政への書類提出を遅延なく行う。人材確保において、年々難しい状況になってきている。新卒採用については各学校との関係づくりを行うとともに、企業説明会等への積極的な参加とリクナビを活用した採用活動を行う。中途採用については、各事業所の求人状況を把握しながら、ハローワークでの求人活動や、面談会の開催等を検討していく。また、補助金に関する情報収集を行い、取得可能な補助金の獲得を目指す。

### ・総務課

今年度目標で掲げて未達成であった業務効率化を継続して取り組むとともに、職員資料やパソコン内のデータのセキュリティの強化にも力を入れていきたい。また、職員数の増加に伴い、情報共有や研修参加による個々の能力の底上げをし、総務課の業務の質の向上にも取り組みを広げていきたい。

### ・経理課

経理部門の課題は決算処理経験者が少ないので、会計事務所と連携を図りながら、決

算処理を行う。また、平成 30 年度からは介護報酬改定により新規取得加算等が増えたので、加算を集計していく上で書式を統一し、事前に準備をしていく。

その他、今年度より毎月の収入見込み管理や予算作成方法を変更するので、収入見込み管理については 4 月中に、予算作成方法については上半期中に具体的な方法やスケジュールを検討していく。

## 平成 29 年度 介護部門 事業報告書

### 1. 平成 29 年度目標の達成状況

目標① 利用者様が安心、安全に生活を営め、介護職が安全な介護支援にあたる。また、介護職自身の腰痛予防にも努め、健康的に業務に従事する事が出来るよう取り組む。持ち上げない介護プロジェクトを中心に長寿園内におけるノーリフトの最新技術・手技の修得を推進する。

#### 達成状況

- ・事故発生件数を減らすに取り組みについて、昨年度と比較し、ヒヤリハットレポート提出が倍増したが、アクシデントの発生件数は昨年度と変化はみられなかった。  
入所に関しては、アクシデント件数が減少みられるがショートステイにおいて増加した。
- ・福祉用具の活用に関しては、プロジェクトの活動を通して各職員が意識して使用できた。また、機能訓練指導員の指導の下、スライディングシートを使用した新たな移乗方法も浸透してきている。
- ・勉強会の実施に関しては介護部門勉強会委員を中心に講義内容を検討し、毎月の実施、及びアンケートでの理解度の確認等を行えた。

目標② 看取り加算取得 75%を目指す。看取り介護支援プロジェクト委員を中心に、利用者様、ご家族が望まれる終末期、看取り、ターミナルケアを実施及び実施に適した環境を整備する。

#### 達成状況

- ・平成 29 年度においては退所者数 45 名（転所等 2 名含む）と前年度に次ぐ多さであり、その内、看取り支援に移行された方は 32 名であった。  
（取得率 74.4%）  
目標数値には達しなかったが、看取り支援プロジェクトでの退所された御家族へのアンケート等を通し、看取り支援時の対応やお気持ちを知る、また、感謝の言葉を聞くことで、職員も励ましになり、自分達の看取り支援の在り方の再認識にも繋がった。

### 2. 総合評価

29 年度における入所稼働率を 99.4%、新規入所者 3 日以内に受け入れを行う、と目標に掲げたが、退所者数が多い中、ケアマネ・相談部門の協力の下、稼働率 99.6%、2.9 日以内での新規入所の受け入れが達成できた。事前調査の協力や、情報収集に努め、入所後、特に大きな問題もなく新規入所者様も生活されている。同じく、

ショートステイにおいても稼働率92.5%を目標にしていたが、ほほえみユニットでの重度の方の受け入れや、緊急受け入れを実施する事で94.9%の実績を上げる事ができた。

地域での行事や400人プロジェクトを通し、地域の方々との交流を深め、長寿園及び恵仁会に対する関心を強めて頂くことに繋がった。

近隣の小・中学校にて交流会や介護講座を行い、少しでも福祉に興味を抱いてもらう取り組みが行えた。

職員が安心して働ける様、育児や出産に関する相談等行い、産前産後及び育児休暇該当者が7名の実績があった。負担がないよう、各職員が協力し、業務の調整等行った。感染症流行時に利用者、職員ともにインフルエンザの発症があったが、早期の対応及び対策を実施することで、拡大することなく終息することができた。

### 3、次年度の課題

利用者様の重度化が進む中で、今後もノーリフト・看取り支援に関しては特養において大きな課題と言える。

今年度において、看取り支援、ノーリフト、2つのプロジェクトに関しては一定以上の成果を得ることができた。それぞれに職員の意識の変化もみられているが、職員間での力量差がまだまだあるため、次年度においても活動を継続し、職員の質の向上に努めていく。

上記の重度化に加え、業務に係る必要書類の量も増えている。それにつれ、職員の身体的、精神的負担の割合も増えている。記録システムの導入を行うことで、直接処遇以外での業務効率化を図り、職員が余裕をもってケアに従事できるように環境を整える。

## 平成 29 年度 看護部門 事業報告書

### 1. 平成 29 年度目標の達成状況

看取り支援プロジェクトチームを中心に研修会等を実施し、個人のスキルアップが図られた。又一人一人の看護師が個々の利用者において健康チェック表を活用し早期に看取りへの移行が図られた。ユニット担当看護師の役割においては、介入が遅れ早期治癒に時間のかかるケース等が見られた。

### 2. 総合評価

- ① 看取り加算は目標 75%であったが、退所者 43 名、看取り支援 32 名であり 74.4%であった。健康チェックシートを活用し早期に支援へ移行を行い、多職種と連携が図れた結果だと考える。
- ② 病院嘱託医と連携を図り、看取りへの移行もスムーズに行えた。  
嘱託医来院時や回診等を通し、利用者の状態報告を行い異常の気づきが早期にできている。
- ③ 感染症に関しては、インフルエンザが 1 月より発生し接触者に対し予防投与、感染マニュアルに準じた対応を取った結果、施設内で集団感染を起こすことなく終息した。  
インフルエンザ発生に伴うタミフル予防投与は計 103 名の職員に実施し約 2 8 万の施設負担となった。
- ④ 経費削減の取り組みにおいては、1 社集中で衛生材料等を依頼していたが数か所への見積もりの依頼をかけ、経費削減に努めた。  
一か月に約 1,500 円～2,000 円の削減が出来ている。
- ⑤ 個々の目標において面接等を通し、各種研修会へ参加させた。しかしアセスメントする力が弱い所があり次年度への課題としたい。
- ⑥ 入所者の医療度が高くなっている中、ショートステイにおいても腹膜透析の受け入れや様々な処置の受け入れが出来てきている。

### 3. 次年度への課題

- ① 経費削減への取り組み
  - ・ 衛生材料の見直し  
定期的に衛生材料の見直しを行い（1 回/3 ヶ月～6 ヶ月）削減に努める。
  - ・ 利用者負担の検討  
利用者負担に出来る材料は利用者家族と話し合い、負担できるようにしていく。
- ② 物品管理
  - ・ ユニットごとの定数管理の徹底  
各ユニットの定数管理を行い、不要在庫の削減を図る。

- ③ 感染対策
- ・インフルエンザワクチン接種の実施（利用者・職員）  
問診票の送付（10月作成し、家族に向けての送付の実施）
  - ・インフルエンザ発生時の予防投与の検討  
「濃厚接触者とは」を考え、マニュアルの作成を行い予防投与の実施を行う。  
（職員用・利用者用）
  - ・利用者予防投与代金の個人負担の継続
- ④ 災害時の備え
- ・停電時に備え、充電式吸引器の充電を定期的に行う。  
台風発生に伴い、充電の確認を行う。
- ⑤ 各種加算の取得
- 【本入所】
- ・看取り加算取得目標 80%  
担当ユニット看護師が機能し、早期に多職種・嘱託医と連携を図り看取り支援体制へ移行できる。  
看取り支援チームと連携し、研修会を実施し、スタッフの知識の向上を図る。
  - ・配置医師緊急時対応加算（早朝・夜間）  
指針の作成およびマニュアルを作成する。
- 【短期入所】
- ・看医療連携強化加算の継続  
月末における書類の不備が無いように実施する。
  - ・看護体制加算  
要介護者3以上が70%である事をケアマネジャーと連携を図り確認とる。
- ⑥ マニュアルの見直し
- ・緊急に対応マニュアル（日勤・夜勤）の作成
- ⑦ 各種イベントへの参加
- ・法人内各種イベントへの参加
  - ・ドライブサロンへの参加
- ⑧ 人材育成
- ・看護職個人目標による研修会等への参加を行い、個々のスキルアップを図る。
  - ・教育（看護・介護・新入職者・各種学校実習受け入れ）
  - ・長寿園における喀痰吸引等業務方法により、介護職に対しての実技指導の実施
  - ・喀痰吸引研修における他事業所50時間研修修了者への実技指導

## 1. 平成 29 年度目標の達成状況

- ・機能訓練体制加算においては、看取りケア導入の利用者全員とショートステイの稼働率が予算を超え、目標の 97%を超え 98.4%の実績となった。
- ・個別機能訓練加算においては、平均延べ人数 200 名/月を 172 名/月に下方修正を行っている。結果実績として、平均延べ人数 176 名/月となり、目標達成している。
- ・電動ベッドへの切替えを 60%としていたが、見守り介護ロボットを検討したため、離床センサー内蔵型電動ベッド×3 台のみの導入(コスト高)とし、58.2%の実績となっている。
- ・跳ね上げ式車椅子への切替え 70%に対して、計画的な導入を行い 74.7%の実績となっている。
- ・特浴介助の移動・移乗方法の見直しについては、アクシデントもなく確立しているが、入浴日のスタッフの勤務状況により、着衣ストレッチャー活用による移動がないケースもある。スライド移乗は、ほぼ定着している。
- ・リクライニング車いすとベッド間のスライド移乗方法は、全ユニットケア統一が図れている。
- ・褥瘡発生ゼロの取組みにおいては、年間数名の褥瘡発生者が出ている。発生者の再発予防は行えているが、日々のリスク管理と予防対策が不十分であると感じる。H30 年度の介護報酬改定により、褥瘡マネジメント加算が新設されたため、褥瘡予防管理委員会にて各部門の意識レベルの向上・ケアの質向上とスキルアップを図りたい。
- ・福祉機器・用具類の管理強化については、継続して管理が実施できている。

## 2. 総合評価

- ・135 名の機能訓練体制加算実績は、予算達成できている。ショートステイの個別機能訓練加算も下方修正した予算を達成できている。ミニデイサービス軒輝くん家での個別機能訓練介入も特に問題なく、継続できている。
- ・スライディングボード(ダンボール製・ポリエチレン製)とスライディングシートを併用したスライド移乗の確立(特浴含む)をした事により、経費削減と抱え上げ負担なし、転倒・転落リスクを回避する事ができている。
- ・スライディングボード(正規品)も、移乗負担の軽減・脇下介助によるリスク対策など現状 5 ユニットで活用ができている。
- ・移乗時におけるターンテーブルの活用も浸透してきており、足関節などの骨折リスク対策ができている。
- ・スタンディングマシンの活用も徐々に増えてきており、現状はいから・さわやかユニットにおいて P トイレ排泄支援に活用できている。今後隣接ユニットへの活用幅を広げていく予定である。また、活用方法として、個浴リフトへの移乗時に活用するス

スタッフもおり、徐々に意識の向上が図れていると感じる。

- ・車椅子ブレーキに延長バーを取付け、繰返し前傾姿勢の負担緩和は、継続できている。
- ・職場環境改善においては、車椅子の随時清掃やメンテナンス、1F エントランスの装飾および2F ガーデンテラスの環境整備、雨漏り対策の実施を例年通り継続できている。
- ・褥瘡発生ゼロの取組みにおいては、年間数名の方が発生している。
- ・機能訓練指導員の1名退職により H30 年 1 月より中途にて 1 名入職となる。基本入所とショートステイの兼務とし、ショートの個別機能訓練介入を優先的に指導に入り、入所の方は、機能訓練体制加算のための計画書等書類作成の指導を実施する。理解力も高く、誠実に取り組んでおり、順調に経過している。
- ・介護基礎勉強会として、「体位交換・ポジショニングについて」の題目にて勉強会を 5 回開催する事ができた。(新人・中途入職者は、必須として)
- ・地域交流においては、事業であるぴんぴん元気教室を主体に、各地区からの出張出前講座(介護予防体操や音楽療法)、祓川地区行事参加など積極的に参加できた。
- ・計画していた年間行事は、月度変更はあったが予定通り全て実施できた。

### 3. 次年度への課題

- ・褥瘡予防・管理においては、委員会のあり方も含めて不十分な点が多々あると感じているため、褥瘡マネジメント加算取得を機会に、褥瘡ケア計画に準じた予防・管理を褥瘡予防管理委員会にて徹底していきたいと考える。また、請求管理も複雑になってくるため、管理を徹底していく。
- ・ショートステイの生活機能向上連携加算においては、居宅ケアプランとの連動を図り、利用期間中に外部リハとの共同アセスメントを実施していくため、対象利用者の管理や外部リハとの調整が、たいへん煩雑となるため、チーム連携力が問われる。
- ・ケアの質向上・リスクに関しての対策と意識向上のために、新卒・中途採用者および入職 3 年未満の介護スタッフ向けに勉強会を検討しているが、評価方法を検討する必要がある。年間教育プログラムとして統一・確立していきたいと考えている。

1、平成 29 年度年間目標達成状況

- ① 施設計画書（ケアプラン）作成では、ご本人の自立支援に必要なアセスメントを行い、個別の能力の維持・向上のため各職種協働で取り組み、その内容についてご本人・ご家族に説明し、同意を頂くように取り組みを行った。本入所では、モニタリング評価を導入して質の向上に努めた。
- ② 入所稼働率 99.4%を目指し、相談員や各職種と取り組みを行った結果、99.6%（平均空床 2.9 日）と目標を達成することができた。また、グループ内の連携を図る事で、情報収集は速やかに行うことができた。
- ③ 加算取得の取り組みについては、アセスメントから導き出した個別の能力の維持・向上のために各職種が協働で取り組み、経口移行や経口維持加算等の取得に繋がった。看取り支援においては、ご本人及びご家族の意思を十分尊重し、看取り介護計画を作成したうえで、各職種協働で支援することができ、74.4%の看取り介護加算取得することができた。
- ④ ショートステイの稼働率目標を達成し、年間平均稼働率 94.89%を確保することができた。利用者の重度化に備え吸引器 2 台がある為、特に病院等の医療機関からの医療ニーズが高い利用者の受け入れができるようになったことも要因としてあげられる。

2、総合評価

本入所では稼働率の目標を各職種と連携を取りながら達成することができた。感染症対策については、各職種と連携しながら、情報共有等を行い、感染症が発生した場合であっても、感染拡大を防ぐことができた。また、ショートステイでは入所前に体温測定を行うなどの対策を行った結果、施設内での感染を予防することができた。

避難訓練や災害時の利用者情報を随時更新し災害に備えた。ドライブサロンへの参加や、地域行事への利用者の参加支援を行い、地域貢献活動や利用者の地域交流を行うことができた。笠之原地区のオレンジカフェには 1 度参加を行ったが、その他のカフェについては月末に開催されることが多く、利用者家族の都合により担当者会議等と日程が重なってしまったため、参加に至らなかった。毎月勉強会を行い、ケアマネとしての研鑽に努めた。介護部門中堅職員への勉強会を予定していたが、感染症の等により実施できなかつたため、今後は介護主任と開催時期を検討し、日程調整を行うことで勉強会の実施に努める。

ケアプラン作成にかかわる一連の業務は、不備がないように行っているが、本入所においては、利用者の重度化が進み状態変化によるプラン変更や、新規入所者受け入れのための業務に追われ書類整備が滞りがちになった。業務の工夫や業務スケジュール管理等をおこない、業務の効率化に努める

加算導入に伴い、随時プランの見直しが必要になるため、適切にアセスメントをとり、ご本人に必要な加算である根拠を示し、自立支援に取り組んでいく。

ショートステイについては、関係機関と連携を図り、利用者のニーズに応じた支援を行った。新規および緊急の受け入れを迅速に行い、目標稼働率を達成することができた。

医療機関からの医療ニーズの高い方の受け入れが増加している為、「急変における意向確認について」の内容の見直しを行い、利用者等の意向に沿った対応を行い、協力病院と連携を図った。

### 3、次年度の課題

#### ・本入所の課題

待機者選定において、ご家族の終末期の意向などの聞き取りが十分にできなかった。申込み時点で家族面談を行い、施設の方針や料金の説明を行ったうえでの申込みを受け付けているが、終末期の意向確認までには至らなかった。重度化が進み、プラン変更や退所に伴う業務に追われ一連の書類整備に滞りがでることが、課題としてあげられるため、管理表を作成し進捗状況の確認や報告を行うことで改善に努める。

加算についてはアセスメントを行い、導入の根拠を明確にし、ご家族に説明を行ったうえで必要なサービスを導入できるよう努める。また、ご本人・ご家族が望まれる終末を過ぎせるよう看取り支援を行っていくことで、年間80%の看取り介護加算取得に努める。

#### ・ショートステイ課題

医療ニーズの高い利用者の増加や、体調不良や状態変化が増えている事が課題としてあげられる。看護職や介護職と連携を図り健康管理を行うことで、状態変化(異常)の早期発見に取り組む。緊急時の迅速な対応のため医療機関との連携を図ることやご家族や関係機関に連絡を行うことで、信頼して利用して頂けるように継続していく。

加算取得については、アセスメント時に必要な加算要件を確認し、居宅事業所への働きかけを行っていく。加算についての根拠を提示し、必要な支援を行っていく。

稼働目標を達成するために、利用中の健康管理を徹底し、異常の早期発見・早期対応に努める。空床対応として、速やかに居宅事業所へ呼びかけて、利用促進に努めていく。

居宅支援事業所等へ、現状報告書と併せて空床状況の報告を行い、連携を図る。

#### ・自立支援に向けたプラン作成の課題

施設新人介護職に対してオリエンテーション時に介護支援専門員の役割やケアプランの研修を行うことで介護職のアセスメント能力を向上させ、適切なプラン作成を行う。また中堅介護職に対しアセスメントの目的や記入方法についての研修を行い、人材育成に努める。

平成 29 年度 生活相談員部門 事業報告書

1. 平成 29 年度年間目標の達成状況

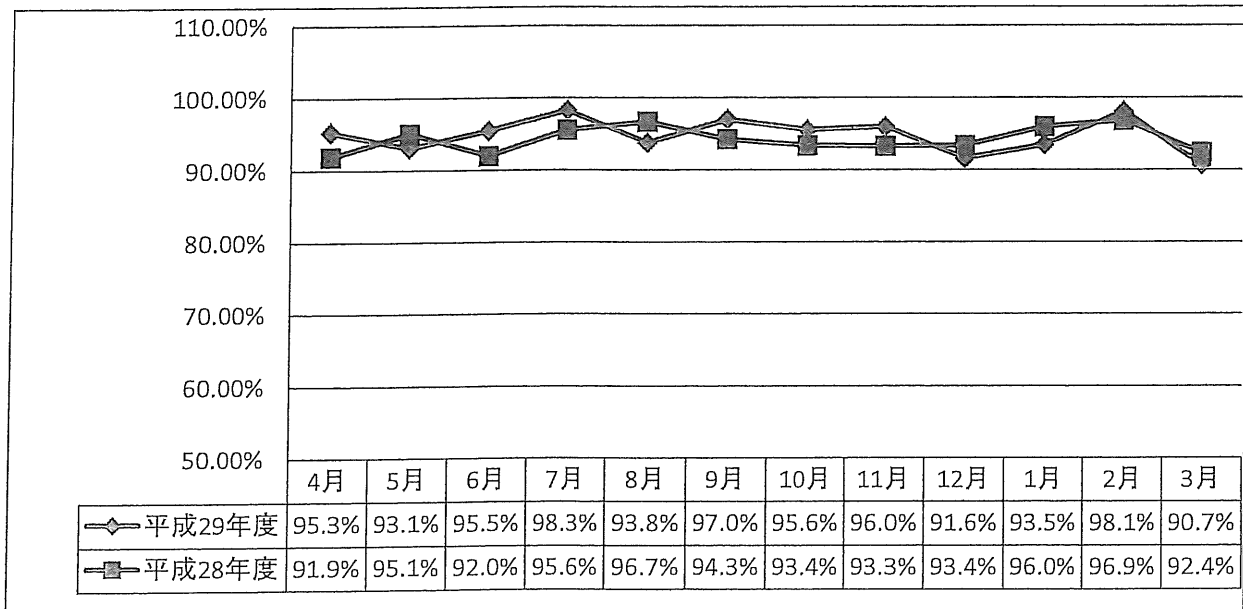
1) 本入所

平成 29 年度の入退所者数や平均日数等は下図のとおりで、入所稼働率は 99.6% (109.6 人) となり、目標を達成出来た。平成 29 年度においては、初回調査に関して基本的に介護支援専門員以外の、相談員と介護部門で情報収集を行った。介護支援専門員に対しては入所前に情報提供を行い、昨年とほぼ変わらない入退所を管理することができた。

	平成 28 年度	平成 29 年度
入退所者数	退所 51 名、入所 49 名	退所 45 名、入所 45 名
累計空床日数 (入院除く)	135 日	130 日
平均日数	2.6 日	2.89 日
入所申込者総数	279 名 (H29.2.22 検討分まで)	283 名 (H30.2.20 検討分まで)
当該年度申込者数	153 名	174 名
当該年度調査者	59 名	54 名
当該年度取り下げ数	177 名	156 名

2) ショートステイ

ショートステイの年間稼働率目標 93.5% に対して平成 29 年度の平均稼働率は 94.89% となり、目標達成出来ている。平成 28 年度に吸引機を 2 台購入したことにより、特に病院からの医療ニーズの高い方の受け入れに役立ち、前年度と比べても稼働率の維持ができた。



## 2. 総合評価

### 1) 本入所

昨年とほぼ変わらない退所者数であったが、目標達成をすることができた。しかし、年々重度化が見られる中、入所後の在籍期間が短くなってきており、12月から2月までの3ヵ月で21人もの退所が出ている。11月時点で待機者を7人面談していたが、過去のデータを上回る退所数となった。入所受け入れに時間を取られ、待機者の調査に出ることが難しい月もあり、介護支援専門員や介護職員、看護職員への情報提供が直前になるケースが増えてしまった。また、今年は衆議院総選挙があったが、重度化に伴い投票できる方が減っている中、不在者投票はせずに期日前投票の利用に変更した。大きなトラブルはなく投票を行うことができている。その他の業務に関しては、年間行事計画に基づき、おおむね計画通り進められたと考えている。

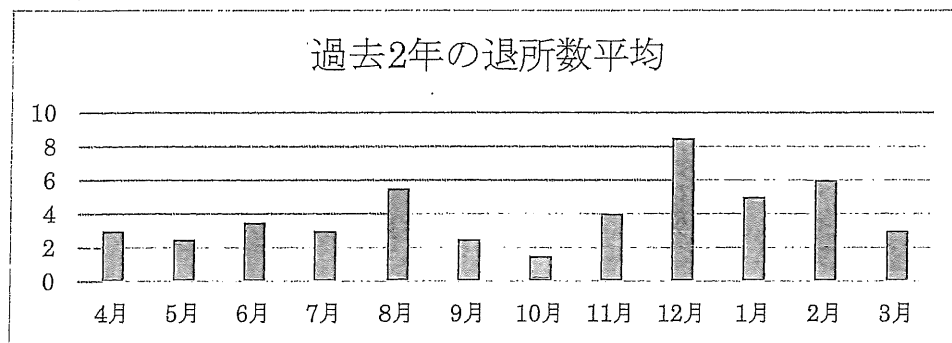
### 2) ショートステイ

稼働率について年間平均稼働率は達成していたが、月ごとでみると、5月と3月のみ目標未達成であった。その他の月に関しては、重度化・高齢化により利用のキャンセルがある中で、新規や緊急の受け入れを速やかに行い達成することができている。池田病院と老人保健施設ひだまりとも連携し、アセスメントにより本人や家族のニーズに基づいた支援を行うことができていた。

病院からの医療ニーズの高い方の受け入れが増えている為、体調不良や急変のリスクに備えて、平成29年度は「急変時の事前意向確認書」の内容の見直しを行っている。必要時には池田病院の協力が得られるように体制を整えている。

## 3. 次年度への課題

### 1) 本入所課題



重度化に伴い、在籍期間も短くなってきているが、看取り支援にも力を入れており、特別養護老人ホームの果たす役割を考えると致し方のないことであると考えている。ただ、多職種の業務負担が増加していることへは考慮していかなければならない。月別の退所数を確認すると、夏と冬に増加する傾向があるが、ひと月当たりの退所数が増えてきている為、来年度は5月と11月の入所検討会後に他部門に協力をもらい、退所数の平均値をもとに、待機者の調査を実施し、待機者を多めに確保しようと考えている。

なお、冬は退所が多い為、状況をみながら11月と1月の2回に分けての調査を検討する。事前に情報を収集しておき、あらかじめ情報共有しておくことで少しでもゆとりのある入所の受け入れに繋がっていきたい。

今年度から選挙に関しては、期日前投票を利用し始めたが、利用者様にとって、せっかくの外出機会である為、今後は企画として選挙後に買い物支援などを検討したい。利用者様の生活の質の向上に向けて相談員で、できる範囲の支援をしていく。

## 2) ショートステイ課題

平成29年度はアクシデントの発生件数が多く、入院などに繋がる重大ケースも発生している。新規受け入れに関しては、アクシデントの発生リスクの把握に努め、アセスメントにより予防に繋げるようにしていく。加算についての課題として、アセスメントから必要性のある加算要件を確認し、居宅ケアマネへ働きかけを行っていく。目標稼働率を達成するために、利用中の健康管理を行い、異常の早期発見・早期治療に繋げていく。空所がある場合は、速やかに居宅介護支援事業所へ呼びかけ、利用に繋がられるように努めていく。

1. 平成 29 年度目標の達成状況

1) メニューの充実

- ・ 栄養相談、栄養管理、喫食調査、嗜好調査等を行い、見てきれい、食べて安心、食べやすい形態、楽しい食事を提供出来た。
- ・ 行事食の他にステーキを焼くなどの実演も行い生活に潤いをもたらすことが出来た。
- ・ バイキング、居酒屋、デザートを楽しむ会を実施し、普段とは違った演出を企画・運営出来た。場所や雰囲気を変え、よりおいしく楽しんでいただけるように工夫した。

2) 食の安全性

- ・ 郷土色豊かな食材や旬の素材を新鮮な状態で地元小売業者からなるべく仕入れ、高品質・安心・安全でおいしい食事を提供出来た。

3) 栄養ケアマネジメント

- ・ 利用者様の低栄養を防ぎ、より良い生活を送っていただくための栄養ケアプランの作成。110名全ての利用者様に実施し、記録の充実に努めた。
- ・ 喫食率、水分摂取量の把握を行い、向上に努めた。
- ・ 血液検査結果・体重増減を確認、他職種チームで総合的にマネジメントした。
- ・ 歯科医師の指導により口腔ケアの徹底を行い肺炎防止に努めた。
- ・ 低栄養状態の早期発見等により入院に至らないよう栄養管理を行えた。
- ・ 看取り支援や空床を縮める為の努力をチームで取り組むことが出来た。

4) 経口移行加算・経口維持加算・療養食加算

- ・ 医師、歯科医師、看護師、ケアマネ、介護職、機能訓練指導員等との連携をとり、役割、記録の精度を高め、口腔内の清潔保持、義歯の調整をはじめ口腔状態を適切に保てるように努めた。
- ・ 最期までお口から食べたい方、胃瘻になられた方へは、食事を楽しめるようチームで取り組みご家族からも満足の声をいただけた。
- ・ 透析、糖尿病等で治療食を必要とする方へ適切な食事の提供を行い、健康が維持できるように努めた。
- ・ 経口摂取や療養食の加算算定の検討は、入所時又は状態変化時、認定切れの担当者会議等で行い、医師や歯科医師、言語聴覚士等へ相談し指示のもとケアプランに反映させ加算取得に努めた。

栄養関係加算取得金額は、昨年と大きな増減なく 1180 万円/年となった。

5) 業務の効率化

- ・ 役割を明確にし、責任をもって業務を行うことが出来た。
- ・ 職員同士互いに密接なコミュニケーションを図りながら業務運営した。
- ・ 栄養管理業務、調理業務、衛生管理業務等を連携して効率よく行うよう努めた。

## 2. 総合評価

役割を明確にし、栄養管理業務、調理業務、衛生管理業務等を連携して効率よく行ったことで加算取得の成果をあげることが出来た。具体的には、次にあげる項目を当初予定していた通り実施することが出来た。

### 1) 人材育成

- ・池田グループ内での異動があり、業務の引継ぎを行った。(7月～・2月～)
- ・リーダークラスへの栄養教育を行った。  
内容は、脱水について(7月) ころみについて(12月) 食事形態について(2月)
- ・肝属地域給食連絡協議会・老施協等の研修会に参加した。(7月・9月・11月)

### 2) 感染症対策

- ・ユニットに衛生チェック表の記入を義務付けた。(毎日)
- ・栄養士と事務局員の二人が衛生点検の巡回をした。(5月)
- ・給食委員会で衛生教育を実施した。(毎月)
- ・食中毒予防のポイントについての教育を行った。(1月)
- ・食事介助などを行う職員や料理活動を行う利用者様に検便を実施。(7月・11月)
- ・水質検査、害虫駆除を業者に依頼した。(毎月)

### 3) 防災対策

- ・災害時の備蓄食品や食器等の準備、保管状況の確認をし、賞味期限の食品の交換を行った。給食委員会で確認を行った。(4月・10月)

### 4) 地域交流

- ・花岡 バーベキュー(4月) ・デイサービス 花見(4月)
- ・優花里 居酒屋(5月) ・上祓川地区 健康教室(7月)
- ・優花里、花海家 夏祭り(8月) ・フィットネス(10月)
- ・打馬地区サロン 料理教室(11月)
- ・シニアサポーター クリスマス食事会(12月) ・鹿屋&霧島合同セミナー(2月)

### 5) 在宅の食事サポート

- ・法人の居宅介護支援事業所や相談センターかのやの職員や地域交流会等で在宅高齢者と家族へ高齢者食や介護食、食器、口腔ケア商品の選び方、脱水予防対策等をアドバイスした。

## 3. 次年度への課題

- ・栄養相談、栄養管理、喫食調査、嗜好調査等を行い見てきれい、食べて安心、食べやすい形態、楽しい食事の提供をする。
- ・在宅の栄養・食事サポート
- ・加算取得  
以上、引き続き継続する。

1. 平成29年度目標達成の状況

目標① 新入職者に対する研修・教育・また他職員のスキルアップの為の勉強会の実施。

(達成状況)

- ・新人オリエンテーションも予定通り2週間で終了し各事業所に配属され後、随時エルダリーリーダー・管理者等と進捗状況の確認を行なってきた。また、ケアコールに配属になった新人職員はオムツ交換や移乗介助に携わることが少なく、長寿園のユニットで実技研修を行ないオムツ交換や移乗介助の技術習得に協力を行なった。
- ・法人勉強会の実施を昨年度までは18時半開始としていたが、子供を抱えたパート職員が参加出来ないことや時間外手当の支給の面等考慮し10月より開始時間を13時半からに変更することにより、パート職員も参加することができ参加率が15%上昇し経費削減にも繋がった。
- ・介護部門の勉強会を月1回と予定していたが、行事等と重なり2回程度実施出来ないことがあった。
- ・喀痰吸引・経管栄養の外部研修(50時間研修)に社協・生協・天百合会等3ヶ所参加することにより、計6名が講習まで終了しうち3名は実技研修まで終了し認定取得している。

目標② 利用者様が安心・安全に生活を営め、また職員の腰痛予防の為福祉用具の活用  
の促進。

(達成状況)

- ・ノーリフトプロジェクト委員や機能訓練指導員の協力の元リフトやスライディングシーートの活用が定着してきた。
- ・ヒヤリハットレポートを提出し、安全管理委員会等で各ユニットへ対応策を周知することにより大きなアクシデントは防げたが、ヒヤリハットレポートの提出がユニットや各職種で偏りが見られた。

目標③ 看取り加算取得75%を目指す。利用者様、御家族が望まれる終末期、看取りを実施する。

(達成状況)

- ・ユニット単位では看取り加算の目標達成されているが、ユニットによっては急変された方々が多く全体的には看取り加算取得74.4%と目標達成出来なかった。看取り支援プロジェクトチームを中心に勉強会を開催し全職種が看取りに対しての理解度を深めることにより、御利用者自身の苦痛の緩和やまた御家族が付き添われる際の環境整備も充実していたと思う。ご家族アンケートからも満足度が読み取れる。

## 2. 総合評価

- ・感染症対策において感染症の発生時期には、面会に来られるご家族の方にマスク着用や面会場所の制限等協力をして頂き、感染症発生時には臨時感染症対策委員会を開催し、情報共有や環境整備の促し、職員への意識付け等を行い蔓延防止に努めることができた。
- ・高校や専門学校またハローワークに出向き、広報活動を行うことで人材確保に繋がられたと思う。
- ・人材育成において、行きたい研修アンケートを実施し希望に応じた研修に参加させることができた。
- ・キャリア段位制度のアセッサーとして、殆ど機能しなかった。
- ・地域の事業所見学ツアーに積極的に参加し、地域交流に繋がられた。また、シニアサポーターと密にコミュニケーションを図り体調確認を行った。

## 3. 次年度への課題

- ・アセッサーとして、統括と協働し施設内の介護実技評価を行いレベルアップに努める。
  - ・H30年度の新入職者が3名ユニットに配属になり、半年後には夜勤に従事できるようにエルダーやリーダーと進捗状況を確認しながら指導・アドバイスを行っていく。
- また、他事業所に配属になった新人職員に関しても、管理者と連携を図りながらサポートしていく。障害者雇用の新人職員に関してもメンタル面に留意しながら働きやすい環境を提供していく。

1. 平成 29 年度目標の達成状況

- 1) 積極的な職務遂行を実施することができた。
- 2) 安全、確実な送迎を実施することにより、交通事故防止に取り組むとともに利用者様ご家族との信頼関係を築くことができた。
- 3) ニーズの把握に努め、迅速良質なサービス提供へとつなげることができた。

2. 総合評価

1) サービス内容

- a 安心安全な送迎を実施、提供することによって、継続的な利用及びグループ全体の評価向上に寄与することができた。
- b 積極的に、施設等の維持管理に努め、必要な都度問題点等を確認しあうことにより上質な環境を提供することができた。
- c 他事業所の送迎や外出支援を積極的に協力することにより、利用者様の喜びにつなげることができた。
- d 門松やイルミネーション等を通じて季節を感じていただくことができた。

2) 人材育成

- a 任せられる人材育成に更なる努力が必要であった。
- b 勉強会等への参加により、職員の知識向上、意識向上に取り組むことができた。
- c 安全運転を周知徹底させたことにより、スムーズな運転操作を実施することができた。
- d 経費削減の必要性を周知徹底した。

3) 感染症対策

- a 勉強会等への参加により知識、意識の向上をすることができた。
- b 送迎車両の嘔吐処理セットの点検を実施して、常に最新の状態にした。
- c 送迎車両の定期的な車内清掃を実施して、良好な環境保持に努めた。

4) 防災対策

- a 空調機の保守、清掃を定期的実施し、良好な運転状況を保った。
- b 消防計画に沿って、訓練に参加した。
- c 自主点検を実施して、不具合箇所の是正に努めた。

5) 地域交流

- a 送迎時における地域との良好な関係構築を周知徹底することにより、近隣住民との良好な関係を築くことができた。
- b 他職種の地域交流を支援することにより、良好な関係を深めることができた。
- c ドライブサロンを通じて地域に貢献することができた。

6) 行事計画

- a 給湯設備のメンテナンス、空調機のメンテナンスを予定通り実施できた。
- b イルミネーション、門松の作成を予定通り実施できた。
- c その他の不具合事項についても迅速に対応することができた。

3. 次年度への課題

- a 送迎や外出支援については、更なる安全運転に取り組むとともに、利用者様に安心感を与える運転を心がける。
- b 送迎における介助動作や移乗動作について、技能向上をはかるとともに、ケアマネと連絡を密にして情報の共有を図る。
- c 施設の維持業務について、積極的に施設内及び各事業所との連絡をとり、先行的に業務を実施する。
- d 報告、連絡、相談の態勢を更に確実にする。

1. 平成 29 年度目標の達成状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
予算	131	131	131	131	125	125
実績	130	120	122	122	122	133
結果	未達成	未達成	未達成	未達成	未達成	達成
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
予算	131	131	131	131	125	125
実績	130	120	122	122	122	133
結果	未達成	未達成	未達成	未達成	未達成	達成

病院や包括支援センター、サブセンター、家族の相談により、新規受け入れを行っていたが、11月に人事異動があり新規受け入れを控えていた時期があり、利用者の居宅変更や入院・入所も多く、未達成の状況が続いた。

2月頃から入院・入所が減り、新規受け入れの利用者様の利用継続や要支援の方の受け入れを行い、3月に達成となった。要介護認定の方が更新申請により要支援になった際も担当を継続し、要支援の方の新規受け入れも行っていく。

特定事業所Ⅱ加算取得継続のため、集中減算のないように、毎月件数を確認しながら全員のケアマネで周知し取り組み、書類を提出することができた。

8月に実施指導があったが、口頭での指摘事項のみで、大きな問題なく、ケアマネジメントの評価をいただいた。

2. 総合評価

稼働率は未達成の状況が続き、1月に予算補正を行い目標の件数を変更した。3月は達成できた。

新規受け入れや利用者様・ご家族様の状況変化時は、法人内のサービス事業所への変更や利用増加に繋がるように取り組んだが、居宅の稼働率が低いことで増加に繋がらなかった。

人材育成として、毎月決まった研修には可能な限り出席するようにし、その他の研修は同じケアマネが研修に参加し偏りなく参加するようにした。

毎月のアセスメント勉強会では、ケアプラン適正化に向け、ケアマネ間での格差が減り適正なマネジメント行えるように、個人のスキルアップのために取り組んだ。

地域ケア会議参加への声かけはなかったが、次年度も積極的に参加していく。

鹿屋市が実施するケアプラン点検にも参加し、助言をもらい、ケアマネ間で情報共有を行った。

地域交流としては、年3回介護保険相談センターかのや、と共同し家族会を開催した。8月は実地指導で参加できなかったが、5月・11月の2回は参加し取り組んだ。

年間行事計画は予定通り実施できた。

職員処遇について、就業時間内で業務を終えるようにし、休日出勤やサービス残業がないように、効率よい業務を心がけて行った。業務時間内で終わられない時は残業申請をして業務を行った。

### 3. 次年度への課題

5月からケアマネが5人体制になり、居宅の稼働件数増加と法人内サービスの稼働増加に向けて取り組んでいきます。又、要支援の方の受け入れも積極的に行い、要介護認定になった時に法人内事業所の利用増加に繋がるように取り組む。

平成31年3月までに165件を目標に受け入れる。

居宅介護支援の加算取得に取り組み、居宅支援での利益向上も行っていく。特定事業所の加算要件である、他法人との事例検討会や研修会を実施し、加算事業所の継続とスキルアップに努める。

ケアプランの適正化に向け、主任ケアマネを中心に、適正なケアマネジメント作成やサービス利用、書類の整備等を行い、ケアマネ間で統一して取り組み、鹿屋市が実施するケアプラン点検にも臨みたい。

平成 29 年度 介護保険相談センターかのや事業報告書

1. 平成 29 年度目標達成状況

平成 29 年度居宅介護支援稼動目標件数 2,535 件に対しての実績は 2,605 件と目標を達成できた。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
予算	210	210	210	210	210	210
実績	205	204	210	217	221	224
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
予算	210	215	215	215	210	210
実績	224	230	225	217	213	215

4 月、5 月は小規模花海家への利用者移行もあり目標達成ができない事もあったが、以降は主力が率先して新規の受け入れを行い結果目標達成に至った。

2. 総合評価

当事業所の運営については、主力が率先して新規獲得に努力し結果に繋げ、特定事業所 1 の運営に至っても要項管理に努め実地指導でも良い評価を得る事ができた。グループ・法人内連携にも努め、各サービス事業所の利益に貢献ができた。

- ・人材育成については、特定事業所運営に欠かせない主任ケアマネの確保、マネジメント力の研修を行いながら自立支援型のマネジメント力の向上に努めた。主任ケアマネ達には、各自役割を担ってもらい責任を持つ形で業務を遂行し事業運営に貢献してもらっている。職員間の連携も主力達の意欲的な発言が、各自の就労意識への働きかけとなり職員間の連携も上手くできている。

- ・地域交流においては、法人や池田病院が主催するイベントや研修企画への協力もできたが、居宅エリア企画の家族会は参加者も少なくなり、また毎回同じ参加者となってきた事から本年度で終了とする。

3. 次年度への課題

- ・次年度の居宅事業運営は、予算達成と主治医や訪問看護と連携を図り末期癌の在宅での看取り支援の件数を上げて特定事業所IVが取得できる様にしていこうと、居宅長寿園との連携強化を図り、法人の目標であるケアコールの 200 件と、小規模多機能の満員稼動に貢献できる様にしていきたい。

### 1. 平成 29 年度目標の達成状況

利用者、家族との面談の中でニーズを把握し、可能な限り本人の自己決定を尊重し、利用者がライフステージのあらゆる段階において、自立した生活を送ることができ、社会活動へ積極的に参画できるよう、関係機関と連携し、適切な計画作成に努めた。

12 月 1 日の開所以来、関係機関・事業所との連携を行い、利用者のニーズに合った障害福祉サービスの紹介、インフォーマルな社会資源の活用等に努めた。

平成 29 年度の目標件数は 40 件であったが、年度末時点での登録件数は障害者 16 件、障害児 24 件、合計 40 件であった。

### 2. 総合評価

恵仁会において、初の障害福祉サービスであったため、事業開始前から障害福祉に関する研修等に参加し、相談支援事業所の運営、障害者総合支援法・児童福祉法等の制度理解、各関係機関・事業所等の良好な関係構築、障害特性の理解等に努めた。

事業開始後においても、研修への参加、関係機関等との連携に努めることにより、利用者・家族・各事業所からの信頼を得ることができた。

相談内容については、児童発達についての相談が多く、障害児の支援はもちろんのこと、保護者に対する支援も行い、各関係機関と連携しながら、適切な計画作成を行うことができた。

障害者支援についても、障害種別・特性を理解したうえで支援を行うことで、利用者ニーズに合った計画作成に努めた。

請求業務については、事務担当と作業分担を行い、適正な請求業務を行った。

### 3. 次年度への課題

登録件数は、徐々に増加しているが、障害児に関する相談が多く、障害者の登録を獲得することが課題となる。行政をはじめ、関係機関等と連携し、障害者の登録件数獲得を行う必要がある。また、登録件数の増加、障害者の相談対応にあたり、相談支援専門員の増員を行うことも視野に入れ、人材獲得にも取り組んでいく必要がある。

報酬改定に伴い、新規加算が新設されたことから、加算取得を行うため、モニタリングや担当者会議の実施を徹底する。また、平成 30 年度から適用されるものと平成 31 年度から適用されるものが混在することから、請求業務については、相談支援専門員と事務担当が連携を密にし、誤請求の防止に努める。

利用者のニーズに応じた適切な福祉サービスを紹介するため、関係機関等との連携をさらに強化し、地域におけるインフォーマルサービス等の社会資源の活用にも努めていく。

1. 平成 29 年度目標の達成状況

1) 認知症サポーターの周知

オレンジのまどについて作成したポスターをサロンや地域住民へ配布することと、新規ご利用者の方で認知症を気にしておられるご家族へは別途案内を行った。地域民生委員宅へは毎月定期的に足を運ぶことができ、その関わりの中で体操教室や介護保険の勉強会の出前講座を行い、またその出前講座に参加されていた方から新規利用の申し込みもあった。デイサービスの施設行事では地域に向けたふれあい感謝祭や見学会を数回実施し介護保険相談会と認知症相談会の実施を行った。3月の満足度アンケートにて30人以上のオレンジのまど周知を目指したが「知っている」は9月・3月アンケートとも17名であり9月アンケート結果から具体的な広報が足りなかった。

2) ご利用者の目標を達成していけるプログラムの構築

ご利用者の目標を掲示は27名行いご本人・担当職員も内容を確認しながらスタートできたが個別の関わりが少なく職員の意識も足りず7名の花を咲かせて今年度は終了した。実施していく中で興味関心シートの活用について考えるようになり、ご利用者の思いを聞き取るスキルを身につける課題が見えた。

2. 総合評価

エリアでの取り組みは、打馬・王子の地域サロンに生活相談員・サポートワーカーが中心に出向き、交流を継続する事ができた。その中で出前講座の依頼も直接入るようになり地域との関係を維持できた。デイサービスを日曜日に地域開放し地域ふれあい感謝祭を開催しフットマッサージや地域のパン屋さんの移動販売などを取り入れ地域資源とのつながりを持って、デイサービスの見学会については祓川エリアや輝北地区を対象にマシンの体験を取り入れた内容で事業所を周知することができた。

介護保険利用者数1日平均39名の目標に対し、上期一月平均38.8人で未達成。下期は上期の結果より利用者登録方法・新規受け入れ方法など改善し一月平均40.3人で達成。年間一月平均は39.6人。平均介護度が下がり収入の安定のため前年度より課題としていた7～9時間利用の割合を35%以上維持管理は年間を通して36～46%を維持している。人材育成については、外部研修へパート職員以外は全員一つ以上研修に参加しており、今年度はファーストステップ・認知症実践者研修を終了し来年度の認知症加算への準備をより濃く行えた。デイサービス内研修では職員が講師となり資料の準備やまとめ、時間配分などを考えることで講師側としてのステップが一つ踏み出せた。

職員処遇では有給休暇の取得状況が把握できる様に一覧を作成し、有給が少ない時は取得できる様個別に声をかけられるようにしている。水・土のノー残業デーの周知は出来ており該当の曜日は意識した声をかけあっている姿が見られる。

### 3. 次年度への課題

平成 29 年度収入に対し次年度の稼働率を上げるため目標登録数を平成 30 年度の事業計画で明確にし、生活相談員は管理者が不在時でも空き曜日の相談対応がスムーズに答えられるように努める。また収入の安定の為、中重度割合については前年度同様の維持を目指す。今年度は地域への繋がりが見えてきたが、デイサービスの特徴やサービス内容を知っていただく所まで十分に至っていないため見学会及びふれあい感謝祭の開催を継続して行う。

## 平成 29 年度 ミニデイサービス 眩揮くん家事業報告書

### 1. 平成 29 年度目標の達成状況

利用者様一人一人に望まれるサービスの提供（レク活動、季節に応じて行事食の提供等、家事活動）を取り入れ、利用者から満足のある意見を頂く事ができた。

7月1日より個別機能訓練を実施できており、利用者の機能維持・目的を把握することができている。

上半期に関して、法人内居宅事業所、外部居宅事業所、包括サブセンターへ営業・報告活動ができた。下半期に関しては、営業活動が実施できなかった事も含め、利用者の体調不良、利用者稼働に維持できず予算未達成の月もあった。また、地域の活動について西祓川のサロン等に出席することで、地域の方との話や顔見知りの関係を構築することができた。日曜開放のオレンジカフェではこじんまりした活動、長寿園フィットネスでは地域参加の方へ、講演を聞いて頂いたり予防体操を啓発することができた。

### 2. 総合評価

- ① 年間稼働平均 90.2%にて達成。
- ② 毎月のデイ会議にて、職員のケアの質を確保することが出来ている。2月後半～3月にかけてアンケートにて利用者・家族への利用満足度の確認をし、「デイに來れていきいきしてきた」との良い評価を頂いている。
- ③ インフルエンザ発症が職員であった為、利用者、他職員へのタミフルの予防投与を行い、感染も拡大せず対策が行えたが、各スタッフの感染発症時の対応に対する意識が薄い為、対処法などを再度認識し共有することとする。
- ④ 9/11 消防署立会の火災発生時の避難訓練、2/26 火災・地震発生時の自主避難訓練を行い、指摘事項を職員へ周知し改善を行なっている。
- ⑤ 地域交流として顔の見える関係性を構築し中心的事業所となれる、日曜開放のオレンジカフェ開催を実行した。西祓川町サロンへ参加、予防体操レクへ参加を行った。また、年2回の7月、11月の運営推進会議にて事業所運営状況の報告、地域貢献内容の説明や事業所への要望の確認を行い、地域との繋がりを深めることが出来ている。
- ⑥ 行事計画では季節に応じた食事の提供や、夏祭り、七夕制作などの企画案を挙げ実行することができた。母の日、父の日、誕生日などではプレゼントとして形に残るものにして満足頂けた。

### 3. 次年度への課題

年間稼働率 86%にむけて、日々利用者動向へ目を向ける。法人内居宅への空き状況などの情報提供、利用追加希望の聞き取りや休みの場合の、振替の調整、介護保険外で

の自主通所を活用した待機者確保へ取り組む必要がある。

また、毎日確実に来て頂けるようにデイでの体調管理、把握を行う必要がある。

個別機能訓練加算に対して、自宅での生活スタイルを把握し維持できるよう、色々な職種からの目線での訓練内容の立案・計画を、職員が共通認識を持てるように教育を行う。また、地域への貢献、広報の実施を行っていく必要がある。

平成 29 年度 ミニデイサービス瑠璃ちゃん家 事業報告書

1. 平成 29 年度目標の達成状況

○収入目標について

・ 上期収入目標 (予算) ¥19,713,000 → (実績) ¥20,620,089 (+¥907,089)

下期収入目標 (予算) ¥19,472,000 → (実績) ¥19,776,225 (+¥304,225)

年間 (予算) ¥39,185,000 → (実績) ¥40,396,314 (+¥1,211,314)

1 月 (予算) ¥3,335,500 → (実績) ¥3,279,197…3 週間入院後取消 1 名、冬季になり自己都合での休み増 1 名 (お迎え時起きれず)、その他自己都合での休み増複数名 (体調不良・所要等)

・ 1 日平均 (人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
予 算	11.9	11.9	11.9	11.9	11.6	11.9	11.9	11.8	11.8	11.6	11.7	11.9
実 績	11.6	12.2	12.4	12.2	11.8	11.4	11.4	11.8	12.3	11.6	11.7	12.1

4 月…1～2 週間入院後再利用 3 名、自己都合での休み増 1 名 (お迎え時起きれず)

9 月…3 週間入院後再利用 1 名、入院後取消 1 名、GH 入居にて取消 1 名、新規登録後利用されず取消 2 名

10 月…住宅型入居にて取消 1 名 (週 4 回利用)、自己都合での休み増複数名 (体調不良等)

・ 要介護度別利用割合

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
予 算	3%	3%	16%	36%	31%	8%	3%
実 績	1%	3%	8%	30%	32%	18%	8%

・ 自主事業での利用

自主平均：(予算) 5 日/月 → (実績) 4.0 日/月

・ 5 - 7 時間と 7 - 9 時間利用の割合

予算：5 - 7 時間 (60%) 7 - 9 時間 (40%)

実績：5 - 7 時間 (63%) 7 - 9 時間 (37%)

・ 入院等による空き利用期間の短縮に対する対応

ご家族や担当ケアマネージャーに対し、早期の段階でおおよその入院期間 (空き利用期間) についての把握に努め、その状況に応じ登録取り消しの相談を行う。また、入院となった場合の収入等の状況についても、早期の段階で把握をし、対応を行った。

○組織 (チーム) づくりの方針について

・ 退職者も無く、スタッフ間やエリア間で協力をしながら業務を遂行した。

29 年度入退職等：入職 1 名 (4 月～寿光園と兼務での勤務)

退職無し

育児休暇中職員 1 名 (平成 30 年 5 月 2 日迄)

## 2. 総合評価

### ○人材育成・研修について

- ・事業計画に沿って、エリア勉強会や外部研修への参加・安全管理委員会にて感染症に関する勉強会・身体拘束廃止委員会にて身体拘束廃止に関する勉強会等を実施し、内容の把握に努めた。また、研修等へ参加した職員から不参加の職員に対して、研修内容を伝達し内容の周知を行った。

職員1名介護福祉士ファーストステップ研修受講（7～1月迄・2～3日/月）の為、人員勤務の都合上、他の職員が外部研修へ参加することが難しかった。

- ・中途採用者（寿光園と兼務：4月から）についても、事業計画通り、研修を実施した。（1～3ヶ月目：オリエンテーション、アクティビティー活動・入浴・食事についての現場実習実施、4ヶ月目：モニタリング・アセスメント等の必要書類作成に関する研修実施）

### ○感染症対策について

- ・事業計画通り、毎月安全管理委員会を実施。その中で感染症についての勉強会（食中毒・インフルエンザ・ノロウイルス等）を実施し、感染症予防対策や蔓延防止に関する知識の習得に努めた。

- ・感染防止セットの点検、確認（10月）

- ・風邪やインフルエンザが流行する時期については、手洗い・うがいの徹底、アルコールでの消毒、必要に応じマスクの着用、感染症が疑われるご利用者に対する対応（随時体調確認・施設内における蔓延防止対策・利用の見合わせ等）を行い、感染予防に努めた。（2月体調不良者やインフルエンザ発症者あり）

### ○防災対策

- ・事業計画以上に、笠之原エリア事業所と連携を図り、年3回（内1回は消防署立会）避難訓練を実施。（平成29年6月・11月：自主訓練、平成29年3月：消防署立会）
- ・H29.12 笠之原エリア事業所のパトロール活動を実施し、安全面や衛生面についての確認や指摘事項の改善を行う。

### ○地域交流や行事計画について

- ・事業計画通り実施。（オレンジカフェ、サロン心和、笠野原小学校交流学习、笠之原エリア秋祭り、笠之原地域各種行事参加、事業所行事等）

## 3. 次年度への課題

- ・30年度においても、予算を目標とし、引き続き安定した運営に努める。
- ・総合評価の各事項（人材育成・研修、感染症対策、防災対策、地域交流・行事計画）については、事業計画通り実施することができた。30年度においても事業計画に沿った事業運営に努める。
- ・29年度は職員が外部研修へ参加することが勤務の都合上難しかった為、30年度は勤務調整等を行い、多くの職員に対し研修の機会が得られるようにする。

平成29年度 ホームヘルプステーション鹿屋長寿園事業報告書

1. 平成29年度目標の達成状況

① 定期巡回・随時対応型訪問介護事業の定着

目標に掲げた実人数50件（毎月）の維持及び収入予算ともに達成。11の外部居宅からのケースも受けており、今後の外部居宅からの新規相談も期待できる。

※ 利用者件数の推移

	訪問介護		居宅介護		定期巡回		
上半期							
月	件数	回数	件数	回数	件数	回数(定期)	回数(随時)
4月	125	1,165	16	611	58	4,055	64
5月	122	1,185	16	637	59	3,960	78
6月	121	1,167	17	618	64	4,113	93
7月	121	1,104	17	636	64	4,507	92
8月	121	1,112	16	551	65	4,264	60
9月	125	1,129	17	548	61	4,210	52
下半期							
10月	124	1,141	17	563	63	4,391	62
11月	122	1,124	17	540	62	4,141	64
12月	128	1,128	17	593	60	4,294	44
1月	122	1,019	17	591	58	4,100	52
2月	116	943	17	514	55	3,746	68
3月	113	1,011	18	604	62	4,303	55

2. 総合評価

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業の定着を目標としてきた。給付費の推移からも解る様に、事業運営の中核を担っている。

また、訪問介護事業と定期巡回事業が一体的に運営を行える強みを活かし、利用者のニーズに合わせたサービスの見直し及び提供が可能となり、利用者の確保にも繋がると考える。

3. 次年度への課題

1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業の定着と安定化

※行政・医療・居宅向けの勉強会を実施（3回/年）

※居宅への営業活動（1回/月）

※サービス提供体制強化加算（I）イの取得継続

2) 収入目標（定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業）

※ 実人数60件（毎月）を維持、予算件数（100件）の達成

※ サービス提供体制強化加算（I）イの取得（介護福祉士割合40%の維持）

3) 人財育成・人財獲得

※ 認知症ケア、中重度及びターミナルケア等に対応できるスタッフの育成

※ 訪問介護員個々の能力に合わせた交換研修の実施

※ 新人スタッフ等への同行訪問による技術指導

※ 外部の訪問介護事業所との業務連携体制の構築

1. 平成 29 年度目標の達成状況

(1) 祓川・西祓川町内会への事業所の広報

地域サロンを開催し、事業所へ気軽に立ち寄れる拠点作りとして取り組みを行ってきたが、事業所職員だけでは人員不足があり、祓川エリアの取組へ参加した。エリア内の事業所が連携している事から、計画は確実に実施できまた合わせて事業所の広報としての役割も達成できた。出前講座を公民館で開催する等の計画は、事業所運営の中で地域へ出向く職員数の確保が難しく達成出来ていない。事業計画としての見直しや、取り組み方法の検討が今後の課題である。

(2) 祓川地域へ向けた事業所内オレンジカフェの開催

祓川オレンジカフェとして、毎月第3日曜日の午前中にミニデイサービス軒揮くん家のフロアを解放して開催した、地域へ広報は行ってきたが、参加者は限定的であった。下期に入り、祓川地区にも民生委員の立ちあげた地域サロンが開催される様になり今後、事業所も地域サロンへの協力体制等を図り、利用者様共に参加していく事が来期への課題である。

2. 総合評価

運営状況についての稼働は、目標である 25 名登録を達成する事ができた。広報活動としての居宅への問いあわせや病院MSWへのアプローチ等を地道に続けてきた結果、下半期には外部居宅からの問いあわせも多くなり、毎月相談が来るようになった。

サービス内容は、利用者の状態に合わせてのサービスの組み合わせが行われ、認知症の症状があっても、在宅生活が継続できている。今後も自立支援へ向けた取り組みを行っていく。

人材育成については、資格取得へ向け、実務者研修などへの参加を促し、また事業所に外部講師を呼んでの研修などへ参加する事で、職員のスキルアップを図る事が出来た。また新人職員教育という大切な役割を全職員が理解し、育成の場として現任職員の介護技術や接遇面等意識を高める場ともなっており、今後も一緒に研鑽し成長できるように育成を行っていく。

防災対策として、火災訓練だけでなく地震や水害対策の訓練を実施出来た。また夏場の台風時期には、鹿屋長寿園のホールへ避難を行い、実質的な動きや不備のある物品など、様々把握する事ができた。万が一の場合の連絡方法や食料の確保など、危機管理として職員全員が身を持って経験できた事は、今後の防災や避難訓練にも活かせる体験であったと言える。

3. 次年度への課題

定員増を予定としている。安定した運営の為には、登録者数目標達成に向け、取り組む。昨今初期集中支援など公的なサービスからの問いあわせも増えてきているが、受け入れを継続して行くことや、職員の医療や認知症ケアに関する知識をもっと深めていく必要があると感じている。職員の確保も近々の課題ではあるが、働きやすく居心地の良い職場の雰囲気作りも今後も継続して行く必要がある。

また地域貢献の拠点の場となる様に、事業所内での活動にも力を入れて行く必要がある。地域開催のふれあいサロンの場へ参加を継続し、地域住民立ち上げのサロンの安定的な運営活動が出来るように協力し、サポート体制を業務として配置できるよう工夫を図りたい。

## 平成 29 年度小規模多機能ホーム花海家長寿園事業報告書

### 1. 平成 29 年度目標の達成状況

事業所年度予算達成のための年間平均登録利用者数 25 件に対して上期平均 21 件、下期平均 24 件、年間平均 22 件と予算達成には届かなかった。法人内居宅との連携及び外部居宅への営業にて利用者確保に向けて取り組み、下期で登録件数を伸ばすことは出来ている。花岡エリアの取り組みとして、毎月鶴羽地区のサロン、オレンジカフェ・ドライブの実施を行い、地域住民との交流及びニーズの発掘へと努めてることが出来ている。また、行事として夏祭り、居酒屋、花岡地区まちのいち開催を開催し地域の方々を呼び込むことが出来ている。

### 2. 総合評価

- ① 年間平均登録者数 22 件にて未達成。目標達成状況に記載している通りである。
- ② 毎月の小規模ケア会議にて支援方法、行事などのサービス内容の確認、検討を行い質の確保に務めることが出来ている。2月に利用者の満足度の確認、業務見直しのためのアンケート調査を行っている。良い評価を得ているがわからないとの回答もあったので、持ち帰りの作品やサービス内容等を写真、広報誌等にてご家族へお渡しし、見える化していくことで次年度取り組んでいく。調査にて改善が必要な内容については、カンファレンスを行い全職員へ周知している。
- ③ 職種に合わせて、外部や法人内の研修参加を行い知識の向上へ努めることが出来た。習得した知識は小規模ケア会議にて他職員へ報告を行い共通理解できるように努めている。
- ④ 毎月の感染症対策委員会にて季節に合わせた勉強会の実施を行い、発生時に対応することが出来るように取り組んでいる。
- ⑤ 11/20 日中火災発生時の自主避難訓練、2/27 消防署立会の夜間火災発生時の避難訓練を行い、指摘事項を職員へ周知し改善を行なっている。また、台風、積雪時は利用者、職員双方の安全確保を行った上で営業を行うことが出来ている。
- ⑥ 地域交流として目標達成状況に記載している花岡まちのいち、オレンジカフェ、ドライブ開催以外に高千穂神社夏越まつり、鹿屋花火大会にて花海家長寿園の屋上開放、夏祭り、敬老会、十五夜への参加、実施にて地域との交流を深めている。また、二か月毎の運営推進会議にて事業所運営状況の報告、意見交換、外部評価を行い、地域と連携できる態勢を整えている。
- ⑦ 行事計画梅ちぎり、夏冬野菜料理、梅土用干、ピーナッツ豆腐作り以外は年間行事に沿って前月に職員と内容の確認を行い実施することが出来ている。人員不足による業務調整が難しく実施出来ていない為、来年度は人員配置の検討及び状況をみて実施する。

### 3. 次年度への課題

登録件数 29 件への変更の可能性もあるので目標達成に向けて法人内居宅への情報提供、外部への広報誌を用いた営業を行い安定した運営へ繋げていく。また、地域の民生委員、福祉アドバイザー等との連携強化を運営推進会議、地域行事にて情報の収集を行い地域より利用者の獲得をすることが出来るように努めていく。

地域密着事業所として、地域への貢献、顔の見える関係性構築へ向けて出向いていく活動、広報の実施を継続していく。交流の中で介護サービスについての相談や介護予防への取り組み、サービスへのつなぎ役として担っていく。

## 平成29年度 グループホームふれあい事業報告書

### 1. 平成29年度目標の達成状況

#### 1) 地域への取り組み

運営推進会議の中で近所の困りごとの意見が出たために民生委員と協力し包括支援センターに繋ぐことが出来た。町内の高齢者クラブとの交流会として、忘年会の企画協力が出来た。また、早朝奉仕作業に参加した。

#### 2) 収入目標

2名の方の看取りを行い、加算取得は達成できた。日常生活の気づきや介護事故を起こさない対策から稼働率99.5%を達成した。室温は外気との差をあまり広げないように、衣類調節を行った。

冷暖房はこまめに切り替えを行い、無駄な電力の削減に努めたが暑さ寒さが厳しかったために光熱費の削減は出来ていない。

#### 3) 利用者満足度向上への取り組み

外部評価を行う事で家族からのアンケートで利用者、家族の満足度の評価を行った。家族や利用者のニーズに合ったサービスの提供を行った。

### 2. 総合評価

9月より職員の退職により、職員1名が不足の状況に陥った。しかし、職員連携と気づきで入院される方もなく稼働率99.5パーセントを達成したことは評価できる。退職した人や友人等に声をかけ手伝いを頂きながら、運営が行えた。その間にも家族からの信頼は変わらず、入院されても終の住家として選んでくださり、2名の看取りを行った。

看護学生・訪問看護師・鹿屋市役所新人研修等の研修生も受け入れいつも好評を得ている。防災・地域交流等への働きかけも積極的に行った。慣れない職員も看取りを行ったことで自信を持ってケアに望めている。

### 3. 次年度への課題

職員の不足は今後も続くと思われる。職員の生産効率を上げる為にも業務の見直し、利用者処遇に対して時間を費やせる仕組みを築き上げる必要性を感じている。管理者変更となる事からも滞りなく「ふれあい」の事業計画に基づき運営を推進したい。

## 平成 29 年度 グループホームあいら事業報告書

### 1. 平成 29 年度目標達成状況

年間稼働率 約 98%と達成、体調管理や事故予防に努め入院者を出さない事を意識しながら総退所者数 5 名の入退所者となった。退所後の入所まで 5 日を超える事があった。

%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月
目標	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99
実績	100	99	100	97	95	98	99	93	100	98	96	98

夏祭り実施は台風等を避けて 10 月に実施、鶴峯東地区の方が沢山寄って頂き地域の方と沢山の交流が図れた。黒羽子地区の奉仕作業への協力・推進会議・吾平町の文化祭、鶴峯東地区の桜祭り参加等地域の方に声を沢山掛ける事ができた。

### 2. 総合評価

平成 29 年度はあいらにとって再出発の年となった。管理者の交代の初年度であり緊張感を強く持って取組んだ。まずご利用者・ご家族・地域の方に細かく声を掛け、ホームでの出来事を知って頂く事が大事かと考え実施した。結果、ご家族からは細かな連絡で安心と評価として頂きました。ご利用者については日頃の体調管理とかかりつけ医・訪問看護との連携強化に努めた結果、5 名の乳退所があったが、早目の受診を行い重症になる前に対処する事が出来たケースもあった。インフルエンザの流行時期に感染者は発生することなく過ごすことができた。認知症のご利用者に対し尊厳を持って接し優しく手を取り握ってコミュニケーションを図るケアを推進した。看取り支援も 1 ケース支援が終了し家族からの評価を頂きスタッフも何かを感じる事が出来たのではないかと考える

### 3. 次年度への課題

年間稼働率 98%を目標とし長く居室が空く事が無い様に関係機関等への声掛けを細かく行う。体調管理や事故予防で長期入院等を出さない事もスタッフ皆で意識を統一する。パンフレットやブログの活用を行う。(パンフレットの作り直しやブログを一般の方に見て頂ける様な取組。関係機関へは足を運んだ時は渡せる様にする。) 看取りケアについては行って来た経験を忘れず様に定期的に勉強会等を行う。引き続きインフルエンザやノロウイルス等感染症には敏感になり出来る対策は事前に講じる事を徹底する。

転倒事故・ヒヤリハットを減らせる様に介護マニュアル活用や KY 訓練、福祉用具知識等のスキル向上を目指す。外部研修・内部研修共に積極的に参加する。スタッフ間ではその場その場で何でも言い合える様なコミュニケーション充実した環境を作れるように管理者・リーダーが中心となり雰囲気を作り日常業務や行事・発表等の場でその成果が得られる様な取り組みを行いたい。

1. 平成 29 年度 目標の達成状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
予算	45	46	47	49	51	53	53	52	51
実績	48	50	48	52	57	61	62	63	58
月	1月	2月	3月						
予算	51	52	52						
実績	54	53	54						

予算に対し年間を通して予算以上の実績をあげることが出来た。50件の安定的な経営に努めるという年間目標に対しても達成できた。地域の集まりにも参加し広報活動を行なえたが、まだ地域にこの事業が根付いていると感じるまでには至っていない。

居宅事業所への広報に関しては、利用者様の報告書提出と合わせて訪問し、利用者情報の共有に努めた。今後は外部居宅とのつながりをさらに深め利用者獲得にもつなげていきたい。職員の資質向上という意味では、成長をあまり感じる事が出来なかった。しっかりとした教育体制を作る為に、施設職員との交換研修等を行ないスキルアップが図れるような取り組みを次年度は行って行きたい。

2. 総合評価

実績件数は満足いく結果となったが、様々なニーズや時間帯重なりなど今後利用者が増える体制を考えた時には、人員体制、人材育成について考え直さなければならないと感じた。今年度計画していた満足度調査は出来なかった為、次年度に取り組む課題とする。職員処遇に掲げた定時退社については、人員の関係上なかなか守れず、逆に時間外が多く発生する状況にあり、今後の課題として取り組んでいかなければならないと感じた。恵仁会で我々は在宅事業所の一つとして少しずつ認知されてきているが、まだ鹿屋市においてその認知度は低く、知っている方も少ないと感じる。またサービス内容に関しては外部のケアマネージャーが理解できていない事もこのサービスが伸び悩んでいる原因ではないかと考える。本来必要なサービスが必要な方に届けられていないのでは意味がない。そのため新たに取り組んでいるアセスメントステイなどを活用し、在宅でのイメージを感じて頂ければ利用者増につながるのではないかと思う。

3. 次年度への課題

- 笠之原エリアとの連携で利用登録数を件
- 定期的な営業活動
- 地域行事への参加
- 企業セミナーの200件継続
- 施設職員との交換研修

1. 平成29年度目標の達成状況

1) 各種加算の手順を順守し、書面整備、実際のサービスで算定を行う。

医療連携加算、個別機能訓練加算、夜間看護体制加算、看取り加算、サービス提供体制加算強化に関して算定を行った。認知症専門ケア加算に関しては職員の異動があり、算定出来なかった。

2) 安定した稼働率の確保

目標：稼働率を98.6%に保ち、安定した運営状況を維持する。

空床期間に関しては縮めることが出来たが、4月、9月、11月、2月、3月については入院があり、達成できなかった。

3) 地域支援

①医療・福祉セミナー

4月（介護予防）8月（認知症サポーター養成講座）12月（介護保険について）を予定していたが、8月、12月については人為不足等もあり、地域との日程調整が難しく実施出来なかった。

②見守り隊の活動

2か月に1回、優花里職員で独居、高齢者世帯見守り、安否確認を行った。またオレンジカフェ等企画の呼びかけも行った。

③オレンジカフェ、オレンジドライブの実施。

オレンジカフェを偶数月、オレンジドライブを奇数月に行うことで独居高齢者がバーベキュー、夏祭り等の参加されるようになった。

④認知症徘徊模擬訓練の実施

町内会防災避難訓練とあわせて行い、SOS連絡票の活用法等も含め、訓練の重要性を理解していただいた。

2. 総合評価

①利用者満足度向上への取り組み

- ・稼働率について入退所はスムーズに行えたが、池田病院以外に入院した場合の退院がスムーズの行えず4月、9月、11月、2月、3月については未達成であった。
- ・サービス内容に関して毎月の会議等でアセスメント、ケアプランをもとに議論し、また不適切なケアの見直しも行い、ケアの向上に努めている。
- ・人材育成として外部研修はテーマ別研修、ファーストステップ、認知症介護実践リーダー研修に参加。新人職員は在宅勉強会に参加。リーダーの育成に関しても生活相談員と協力し、OJTやエルダー制を活用し指導を行った。
- ・感染症対策として毎月の委員会で看護師を中心に検討を行い、利用者の感染症発症はなかった。

- ・防災訓練として消防立ち合い訓練 1 回、自主訓練 1 回実施。現実的な訓練にする為、打ち合わせはほとんど行わず、職員の状況判断の確認も行い、指導を行った。
- ・地域交流としてバーベキュー、居酒屋、夏祭り、七夕交流会、まちのいち等を行い、また、地域のお茶飲み会や清掃等にも参加し、関係性の構築に努めている。
- ・行事計画として水族館、バラ園見学、梅ちぎり、ソーメン流し、敬老会、運動会、クリスマス・忘年会、初詣、新年会、節分、花見等、人材不足のなか、全職員で協力し、行った。家族参加の行事もあり、家族との交流にもつながっている。

### 3. 次年度への課題

- ・医療機関との調整に看護師を積極的に交えることで入院の減、入院期間を縮める。また営業活動を行い、待機者の獲得を継続して行うことで稼働率 98.6%を保つ。
- ・主治医、看護師と協力し、看取り加算を 80%算定する。
- ・花岡エリアとして地域支援を行い、今まで以上に優花里、花海家を認識していただき、花海家登録 29 名に向けて町内会長をはじめ、民生委員、福祉アドバイザーの協力を頂き、地域からの利用者獲得を行う。
- ・人材不足により介護職によるたん吸引等の実施のための研修に参加出来ていない為、人材を確保し、研修への参加。また、人材を確保することで業務及びシフトの見直しを行い、ケアの質の向上、定時出社、退社に努める。
- ・人材育成として花岡エリアでの勉強会の開催。リーダーを対象とした他事業所研修を計画。

1. 平成 29 年度目標の達成状況

○ 収入目標について

収入目標 円10,170,000 収入実績 円10,154,430 差額 円15,570

○ 入居者状況について

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
目標	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8
実績	8.1	8.5	8.9	8.6	8.6	8.6
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8
実績	9.0	8.8	9.0	9.0	9.0	9.0

2. 総合評価

- ・ 入退居による空床は4月に1件：2日  
入居率目標では4月・5月・7月・8月・9月の上半期においてを達成できていない。
- ・ 退居者発生後は、空床2日間で早期の入居調整が図れた。
- ・ 入居申込者は、有料共通での確保が図れた。
- ・ 中途採用者へ（7月1名・12月1名）マニュアルに沿って研修等を実施した。
- ・ 在宅部勉強会での研修と、ミーティングを利用して身体拘束・高齢者虐待・ケアのあり方等も含め向上に努めた。
- ・ 毎月、感染症予防対策や情報把握の知識習得に努めた。
- ・ 2月にインフルエンザ患者が発症したが、早期対策により入居者様への感染を防止することが出来たが、職員の体調不良者を出してしまった。
- ・ 笠之原エリア事業所間で連携を図り、年3回（内1回は消防立会）の避難訓練・消火訓練を実施出来た。
- ・ 笠之原エリア事業所間で連携を図り、発足・実施が図れた。
- ・ 入居者様個々へのアプローチで外出（外食等）が図れた。

3. 次年度への課題

入院時における退院可能（期間・再利用）の把握を関係機関との連絡により早期判断し目標達成できるよう安定した運営に努める。

人材育成及び人材確保に努める。

- ①介護保険法、権利擁護（高齢者虐待、身体拘束）、個人情報保護、高齢者介護（倫理・技術・栄養・精神・医療）に必要な知識・技術を養うために勉強会・各種研修会等により、全職員の基本的な理解を得るための教育を行う。
- ②定期的及び随時の面談を実施し、職員の抱えている問題や心配事等を抽出し、早期に課題解決するとともに、明るく活気のある働きやすい職場を作っていく。
  - ・ 定時での出勤・退勤ができるよう業務分掌の検討及び作成を行う。
  - ・ 有給休暇の取得
  - ・ 時間外手当の申請
  - ・ 職員間の融和
  - ・ 平成30年度事業計画に基づき事業運営に努めていく。

## 平成29年度 住宅型有料老人ホームげんき 事業報告書

### 1、平成29年度目標の達成状況

平成29年度は、入院等による退居が6名であった。

入居率98%以上、退居後入居3日以内の年間目標に対し、4月～9月の入居率99.4%、10月～3月の入居率は97.3%、年間平均入居率98.4%であった。

12月～3月にかけて入居者様の急変や体調不良にて入院となり、長期入院に伴い退居の運びとなった入居者様も数名いた。

また、介護サービス利用実績90%以上を目標であったが、各サービス事業所と連携を図り、全ての月が介護サービス利用実績90%以上達成することができた。

体調不良や外泊・外出等でデイサービス等を休まれた場合は、各事業所と連携を図り、デイ利用日を振り替えて調整を行った。

### 2、総合評価

利用者満足度向上への取り組みに関しては、入居者様がここにおいて良かったと思えるサービスや環境を提供する為に、日々のケアの引き継ぎや業務中での情報の共有を行い、月1回行うミーティングでげんき全体や各担当利用者様について話し合い、取り組みの評価・改善を行うことができた。

また、スタッフ間で、元気に明るい笑顔でいること、疑問や悩みがあれば一人で抱え込まないこと、チームメートを大切にし、協力を惜しまず、相手を理解し、感謝の気持ちを言葉に出すこと、楽しく仕事をできるにはどうすればいいのか常に考えることを意識しながらケアに努めることができた。

また、今年度2回、運営懇談会・家族会を実施し、3月に満足度アンケートを行った。

法人内他事業所との繋がりを大切にし、特に事業所の運営、サービスの充実を図る為に、ケアコールセンター鹿屋長寿園とは、情報共有・情報交換を行った。

他事業所については、デイでの様子や、デイオリンピックや有料げんきの企画や家族会等声を掛け合い共同で参加する機会を作った。

打馬・王子地区の地域サロンに参加し、地域の情報収集や地域の方が必要とする情報の発信を行い、地域貢献に努めた。

生活環境に必要な書類を整理し記録として後で見返せる整頓を行った。

感染症対策については、11月にかけて、入居者様6名・職員3名の嘔吐・下痢症状の感染症がみられた。1週間ほどで終息したが、早期に防ぐことができなかった。

### 3、次年度への課題

1人1人が介護の専門性を持ち、介護の仕事にやりがいや楽しさを感じる事が出来るよう取り組む必要がある。

人材育成については、げんきスタッフのルールに従い教育・指導し、知識の習得を支援していく。

同じ目標に向かって職員一人一人が意識向上を図ることができ、不安の少ない働きやすい職場環境作りを目指す。

祇川エリアの事業所と連携を図り地域の集まりに参加していき、住宅型有料老人ホームや定期巡回の説明会、広報活動を行う。

法人内他事業所との繋がりを大切にし、事業所の運営、サービスの充実を図る為に、ケアコールセンター鹿屋長寿園とは、情報共有・情報交換を行う。

有料老人ホームや定期巡回について説明や対応がしっかりと出来るよう、スタッフ一人一人が理解を深めていく勉強会等を開催する。

ケアコールとの合同勉強会を計画、また職種別の勉強会を計画し実施する。

中重度、認知症、ターミナルケアを学ぶ為、特養へ交換研修を実施する。

資格取得に関しては、今年度介護支援専門員1名、社会福祉士1名の資格取得希望者を支援する。

地域の企業・団体を対象に、仕事と介護の両立に関する情報提供を目的とし、介護セミナーを開催する。

## 1. 平成 29 年度目標の達成状況

- ① 日々の健康管理により、入居者の入院件数・日数の減少に努める。
  - ・今年度は、入院が 4 件であった。前年度より、入院件数の減少に努めることができた。
  - ・入院となったケースの中で、転倒などアクシデントから入院となるケースは、1 件もなかった。
  - ・体調不良から入院になるケースでは、1 カ月を超えるような長期の入院はなかった。
  - ・入居者が救急車にて夜間に病院へ運ばれるケースが 1 件あり、職員が不安になることもあったが、ミーティングを通して対応を見直すこともできた。
  - ・入居者様の状態を職員全体で周知し、早めの受診や家族への連絡を今後も心がけていきたい。
- ② 退居者発生後は、早期の入居調整を行う。
  - ・今年度は、8 月と 1 月に入居率が 9 人未満となったが、その他の月は満床を維持することができた。
  - ・入退所についても、申し込み者が増えてきている中で、現在の状況や医療ニーズなど総合的に判断し、入居に繋げられている。
- ③ 居宅周りを実施し、住宅型有料老人ホーム新川長寿園の P R 活動及び入居待機者の確保に努める。
  - ・居宅周りは、実施することができなかった。
  - ・病院や老人保健施設などの定期的な訪問は実施することができ、入居申し込みに繋がるケースが 15 件程あった。
  - ・外部居宅や地域包括支援センターなどから電話での空き状況の相談が月に 2 件程あった。
  - ・新川長寿園を P R 活動については、恵仁会の事例発表大会に参加し、地域の方や外部事業所へ伝えることができた。

## 2. 総合評価

- ・開所して 2 年目となり、昨年の反省を活かし、安定した運営ができたと評価できる。
- ・入居者様や家族との関係性も全職員が積極的にとれていると感じている。
- ・日々の生活の中でも行事や企画を通して、「楽しみ」を増やしている。今後も入居者様とのコミュニケーションやご家族アンケートを参考に生活が楽しく過ごせるようにしていきたい。また、介護保険のサービス内容については、ケアマネージャーへ状況提供し、生活の質が向上するような支援を心掛けていきたい。
- ・在宅サービスの訪問については、前年度より訪問回数を全職員で増やしている状況である。介護技術や運転に不安がある職員も多かったが、問題なく支援できている。

## 3. 次年度への課題

- ・現在 4～5 と介護度が高くなっている現状がある。住宅型有料老人ホームでの生活が負担となってきている入居者様に対して、今後、ご家族とケアマネージャーに相談し、特養やグループホームへの申し込みなどを提案していきたい。
  - 医療ニーズに対して、訪問看護や往診への変更も相談していきたい。
- ・職員の安定的な働きやすい環境の維持として、定期的な面談の実施や業務改善を図り、早期に課題を解決し、職員不足にならない環境を作っていきたい。
- ・地域との関わりの中で、町内会行事に参加し交流を深め、介護の相談や認知症の相談など、気軽にできる関係性を構築していきたい。

平成 29 年度 養護老人ホーム寿光園事業報告書

1. 目標達成状況

①措置費収入

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
11,000,148	10,844,550	10,751,054	10,857,757	11,164,334	10,902,914
10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
10,982,522	11,028,830	11,315,036	11,143,380	11,141,892	12,174,401

総 計	133,306,768
-----	-------------

②法人内介護サービス利用状況

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
3,437,080	3,516,560	3,606,560	3,876,240	3,872,940	3,958,870
10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
3,908,010	3,862,280	4,025,760	4,254,493	4,085,270	4,333,580

総 計	46,737,610
-----	------------

③加算取得状況

障害者等加算	夜勤体制加算	民間施設給与 等改善加算	被服費加算	期末加算
7,396,680	5,155,200	7,059,392	60,000	270,600
介護保険料加算	介護サービス 利用者加算	入所者処遇 特別加算	冬季加算	
346,766	3,471,905	1,015,800	558,376	

総 計	25,334,719
-----	------------

2. 総合評価

○人材育成・研修について

- ・事業計画に沿って、エリア勉強会や外部研修への参加、安全管理委員会にて感染症に関する勉強会、身体拘束廃止委員会にて身体拘束廃止に関する勉強会を実施し、内容の把握に努めた。また、事業所内研修の中で、介護技術講習や養護老人ホームの基準等についての勉強会も実施した。

○感染症対策について

- ・事業計画通り、毎月安全管理委員会を実施。その中で感染症についての勉強会を実施し、感染症予防対策や蔓延防止に関する知識の習得に努めた。

- ・また、日々の手洗い・うがい・消毒の徹底により、感染症予防に努めたが、デイサービス利用者からのインフルエンザの感染があった。

#### ○防災対策

- ・事業計画に沿って、笠之原エリア事業所と連携を図り、年3回（内1回は消防署立会）避難訓練を実施。（平成29年6月、11月：自主訓練、平成30年3月：消防署立会）

#### ○地域交流や行事計画について

- ・事業計画通り実施することができた。（笠野原小学校交流学習、笠之原エリア秋祭り、笠之原地域各種行事参加、運営推進会議、認知症カフェ、サロン心和等）

### 3. 次年度への課題

- ・平成30年度も、定期巡回随時対応型訪問介護看護の利用者拡大を図り、寿光園の支援員も兼務としての業務に従事し、職員の質の向上と、勤務体制の効率化を進める必要がある。
- ・笠之原エリアには現在七つの事業所があるが、それぞれの事業所が管理者を筆頭に力を付けていく必要があると感じる。目標達成に向け事業所同志が協力し合える関係性作りを進めていく。
- ・平成31年4月からの運営開始予定の有料老人ホーム笠野原2号館（仮称）の補助事業事務及び建設時の打合せ等、スムーズな処理を行っていきたい。

1. 平成29年度目標の達成状況

※基幹との定期的な会議の機会を持ち、情報共有の場を定期的に持ち連携を図り、必要に応じて地域住民の困りごとに対応している。

※相談対応についても、本人、家族、地域住民より相談を受け、自宅訪問、状況確認を行い本人、家族のニーズに合わせ柔軟に対応し必要時は関係機関に本人の承諾を得、関係機関への引継ぎを行い対応した。

※利用者の体調不良や生活状況の変化により、対応に追われることも多くなっている。要支援認定における対象者も高齢であり、自立レベルではあるが不測の事態も多く対応に追われる事が増えている。

※新規受け入れについては、担当も増加する中で迅速な対応や業務の効率化を検討し状況に応じて対応を行っている。

※地域支援事業への移行も滞りなく終了している。

※生活コーディネーターを中心に相談窓口として本人、家族、地域住民からの相談を受け自宅訪問を行い、介護に関する相談を中心に対応を行っている。必要に応じて、関係機関への引継ぎ、介護保険申請などの代行なども行ってきた。地域に出向き、町内会役員をはじめ、住民とのふれあいの場に参加、協力し親しみやすい関係性を築けるように努力している。

※地域サロンの開催時に参加、協力をを行い、恵仁会に協力をもらい、専門職による各種講習など開催できるように情報提供を行い地域貢献に努めている。生活コーディネーターの認知度も徐々に上がり地域より参加協力を頂く事も増えている。

※輝北地区の定例会や行事ごとにも参加し積極的に行い関係性を築き、地域住民のニーズ調査、資源把握を行い社会福祉協議会、基幹との連携を図り地域活動の活性に協力している。

2. 総合評価

※職員の退職、移動により職員の入れ替わりもあり、半年間引継ぎを継続している状況であったが引継ぎも終了し目標（180件）も達成しているが、ご利用者様の体調も落ち着かず入れ替わりも多く、対応に追われている状況ではあるが随時、新規を受け入れている。

サブセンターが設置され約2年が過ぎようとし、生活コーディネーターの認知度も少しずつ上がり、地域住民からの多種多様な相談や要望など聞かれるようになっていく。地域との距離も近くなり顔見知りの関係性も気づけているがまだ介入できていない地域も多い。

基幹をはじめとする、各関係機関との連携を図りサブセンターとしての機能、役割に努めてきた。

3. 次年度への課題

※高齢者の総合相談窓口として、迅速かつ円滑に判断し、関係機関との連携や調整、対応ができるように各職員、研修に積極的に参加し資質向上に努める。

※随時、事業所内で情報共有を行い、事例検討の場を持ち適正な対応ができるように体制を整える。

※生活支援コーディネーターとしての次年度の課題は、高隈・輝北地区の資源の開発である。高齢化が進んでいる地域の為、しっかりとニーズを把握していきたい。

そのためには、自ら出向いて地域行事に関わって行くことが一番の近道ではないかと考える。

### 1. 平成29年度目標達成状況

交通安全について、恵仁会での警察署による交通安全の勉強会に職員全員で出席し交通法規の遵守と安全運転に努めたが、車同士の接触が1件あった。

集団食中毒については、利用者様に安心してお弁当を食して頂けるよう衛生管理・温度管理を行い、また感染症予防の勉強会に出席し意識を高めた。

利用者満足度向上への取り組みとして、家に居ながら季節感を味わってもらえるよう旬の食材を使い安心・安全でおいしい食事を提供するようこころがけ、行事食（おはぎ・巻き寿司・うなぎ・敬老等）を提供し季節を味わって頂くことができた。

### 2. 総合評価

目標予算には達しなかったがコスト削減に努め、委託金の中で運営することができた。利用者負担金の未収もなかった。

利用者様が安心して在宅での生活を送って頂けるよう安否確認を徹底し、日々の声かけを通じて気になった点について職員間で情報を共有し対応について話し合うことで利用者様の異変に早期に気づくことができ、また法人内他事業所との連携により救急搬送や入院に繋がったケースもあった。

体調不良による長期療養や産休で人員がなかなか揃わない状況であったが、調理班の見直しを行い、また事務職員も調理・配達業務のサポートに入ることで職員の負担が軽くなるようこころがけた。

配達員同士も各コースの利用者数の増減に応じて見直しを行なうなど協力しあう姿がみられた。

各家庭の状況を考慮し、職員同士が譲り合い協力しあって有給取得に勤めた。8月にはほぼ全員で職員旅行に参加し友好を深めるなど働きやすい職場作りに努めた。

### 3. 次年度への課題

新規利用者様・長年利用されている利用者様も薬管理やセッティングのニーズが増えてきており、また認知症の利用者様の安否確認など1件あたりにかかる時間が長くなっている。限られた人員、配達時間のなかで利用者様とご家族の要望にどこまで応えるか、応えられるかが今後の課題。

安否確認時に緊急連絡先が不通やキーパーソンが変わっているケースもあるため更新を行いながら、包括・居宅・相談センターと連携をとり利用者様の生活を支援していきたい。

### 1. 平成 29 年度目標の達成状況

基本計画にのっとり、安心を提供できるよう、安否確認は、個々のニーズに合わせて行い、スムーズであった。認知症状があり、閉じこもりがちな入居者に対し包括支援センターへ相談、認知症初期集中支援チームの積極的な訪問に繋げることが出来た。要介護保険認定を受けていない場合には、サービス利用の必要性やそのための手続きの流れなどについて説明し、包括支援センターや自治体、介護保険申請窓口となる関連機関へと繋げた。

### 2. 総合評価

- ・集会室利用がなくなりまた、退去者が多く出た事で、近隣住人とのトラブルも少なくなってきた。反面、話し相手がいなくなり LSA 室へ訪室されるが、生活相談以外の話が多く、傾聴し対応するも時間が長くなると、切り上げるタイミングが分からない。
- ・夜間の対応については、通報があった時必ず、警備保障会社に電話を入れ、状況を確認するようにしている。入居者に変化があった場合も連絡を入れている。
- ・救急キットは、民生委員と連携をとり活用している。
- ・LSA（桜ヶ丘・ウィズ）の 3 人で、休み時の状況等について共有出来るようにノートを活用している。

### 3. 次年度への課題

ウィズ下祓川通報機器老朽化に伴い、誤作動が生じ警報音が止まらない案件があった。アイホンへ相談すると、システム全体の更新時期のため住宅課と連絡図り改善策を模索している。

ルーティンワークになっている安否確認について、業務の意味を把握し緊急時対応について、再認識できるよう取り組む